



一般社団法人 石川県社会福祉士会

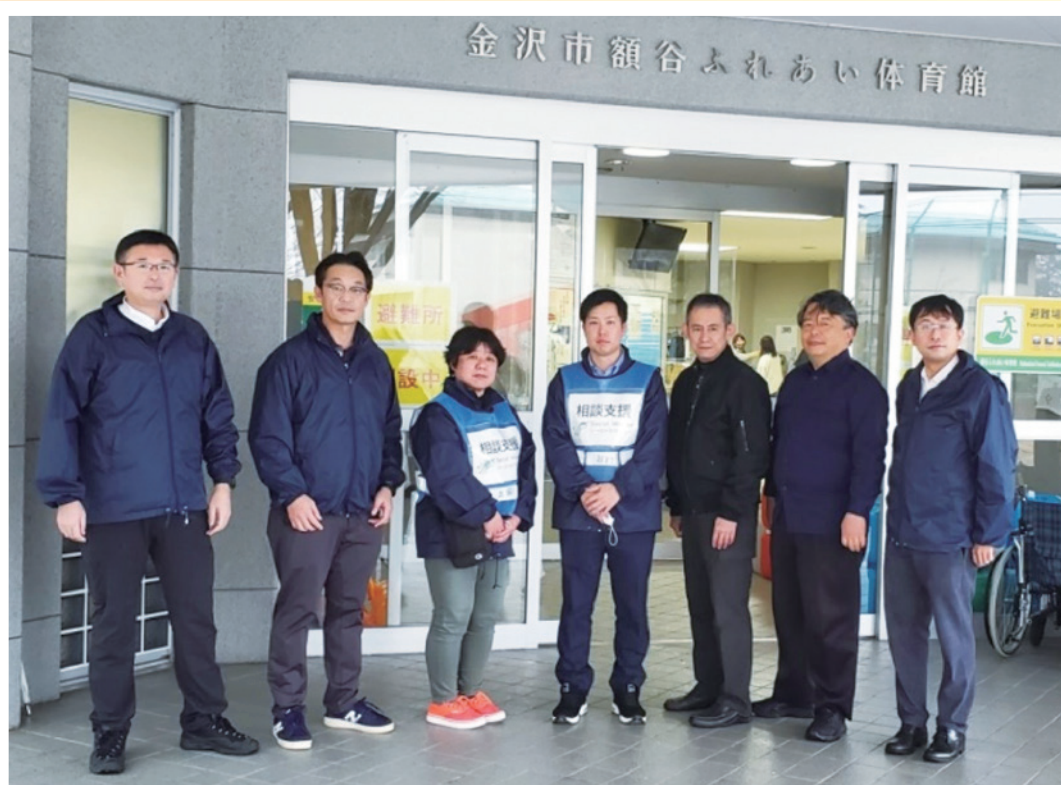
石川CSW81号

vol.
81

いっし〜通信

〒920-8557
石川県金沢市本多町3丁目1番10号
石川県社会福祉会館2階
TEL:076-207-7770
FAX:076-207-5460
E-mail:icsw@spacelan.ne.jp
URL:https://csw-ishikawa.com/

復興“祈念” —共に歩み、共に生きる



金沢市額谷ふれあい体育館にて

設立30周年記念式典

日 時 / 2月8日(土) 午後1時30分～ 式典
午後2時30分～ 記念講演・パネルディスカッション

場 所 / 石川県地場産業振興センター 新館コンベンションホール (金沢市鞍月2丁目1番地)

式 典 / 主催者式辞 来賓祝辞 来賓紹介・祝電披露 功労者・永年会員表彰

記念講演 / 「地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割」
～能登の復興・未来に向かって～
講師 関西学院大学 名誉教授 牧里 每治氏

パネルディスカッション / 令和6年能登半島地震 ～能登に寄り添う福祉的支援をつくる～

祝賀会

～これからのソーシャルワークを
みんなで語り合しましょう!～

日時 / 2月8日(土) 午後6時～

場所 / アパホテル(金沢駅前) 14F
アルカンシェール(金沢市広岡1-9-28)

※申込は別添「開催要項」及び「祝賀会チラシ」をご覧ください。

令和6年能登半島地震における 石川県社会福祉士会の主な活動

被災者に寄り添った支援活動の継続へ

甚大な被害をもたらした能登半島地震から間もなく1年を迎えます。被災された皆さまに対して、心よりお見舞い申し上げます。

当会は行政、関係機関、職能団体等と連携し、全国の社会福祉士会とのネットワークを活かした組織体制を構築して支援活動に取り組んで参りました。活動に関わっていただきましたすべての人に感謝申し上げます。

主な活動は金沢市へ広域避難された方への支援物資の配布と傾聴、1.5次避難所への相談員派遣、みなし仮設住宅への訪問見守り等になります。先の見通しが立たない中、未だに多くの方が不安を抱え、不自由な生活を送っています。ストレスや心に大きな傷を負っている方も多く、元々あった生活課題が更に深刻化することも懸念されることから、被災者の暮らしを守り・支える、我々ソーシャルワーカーの役割はとて大きいと感じています。

被災された方が日常を取り戻していくには、まだ相当の時間がかかります。当会はこれからも被災者に寄り添った支援活動を続けて参ります。

2025年2月に設立30周年の式典を開催します。災害から1年の節目にあたり、能登の復興への想いを将来につなぎ、そして、これからの地域共生社会における「社会福祉士」の活躍と、石川県社会福祉士会の更なる発展を皆さまと祈念する場としたいと思います。

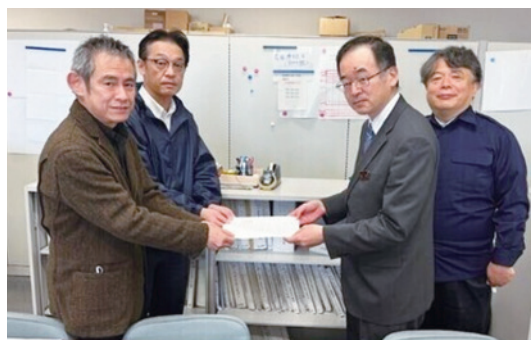
会員の皆さまには引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



会長 末松 良浩

発災直後～2週間

- 1月1日 末松会長を本部長とする災害対策本部を設置
- 1月3日 日本社会福祉士会災害対策本部、北陸3県の県士会で打合せ
- 1月4日 救援物資の仕分け、頒布を実施
※2月以降は、金沢市社会福祉協議会の「あつまらんけ〜の」とへの協力へ事業移行
- 1月7日 日本社会福祉士会先遣隊との意見交換
- 1月11日 日本社会福祉士会 西島会長、岡本副会長と、石川・末松会長が県庁を訪問。県知事宛の支援協力申し入れ
- 1月13日 額谷ふれあい体育館1.5次避難所の訪問、緊急支援物資の頒布会を地域包括支援センターとびうめ、金沢市松ヶ枝福祉館で実施



県庁訪問



救援物資の仕分け

今回の特集では、元日に発生した令和6年能登半島地震に関して、発災当初から夏ごろまでの石川県社会福祉士会としての取組について記録を残す意味でも取りまとめました。なお、9月21日には豪雨災害も発生したことからも、いっそうの取組が求められており、活動をふり振り返りながら、今後の引き続きの活動に生かしていきます。また能登の会員レポートについては6～7ページに掲載しています。

2週間～1カ月

- 1月15日 石川県厚生政策課と今後の支援活動に関する打合せ(以後、随時実施)
- 1月16日～ 金沢市が設置する額谷ふれあい体育館1.5次避難所への相談員派遣を開始
- 1月21日 日本社会福祉士会 西島会長、岡本副会長と、石川対策本部で1.5次避難所訪問(表紙写真)。金沢市額谷ふれあい体育館の相談員派遣事業の視察
- 1月27日 物資頒布会を金沢市社協福祉用具情報プラザ「あつまらんけ〜のと」へ移管(移管後も相談員の派遣協力を継続)

2月

- 2月5日 支援活動者との意見交換会
- 2月7日 富山・福井県社会福祉士会へ支援活動への会員協力を要請
- 2月19日 金沢市1.5次避難所の相談員派遣先に、市内の老人福祉センターが追加
- 2月21日 石川県、石川県社協と地域支えあい見守り相談支援事業受託に関する打合せ。日本士会会長、副会長、事務局長、石川県士会災害対策本部で現地視察、穴水町役場訪問、穴水町社協の活動者との意見交換など
- 2月25日 日本社会福祉士会災害担当者会議
- 2月29日 北陸三県士会の支援活動者との意見交換会

発災直後から今につながる、石川県社会福祉士会の動き

副会長・事務局長 北脇 宜和

石川県社会福祉士会は、かねてより「災害支援委員会」の設置を検討しており、令和5年12月に協議を本格化した矢先の令和6年1月1日に能登半島地震に見舞われることになりました。

組織体制が未整備の状況で、混迷した発災直後から日本社会福祉士会の適切なサポートと会員皆様の力があって、今につながるフォーマル部分の取組みをつくることができました。

一方で会員のSNSを活用したインフォーマルな取組みに端を発し、発災3日後から全国の福祉関係者からの支援物資を受け入れ、待ったなしに食糧や生活必需品を必要としている被災地や広域避難者へ物資を届け、そこからソーシャルワーク支援を展開する仕組みも構築することができました。

緊迫した日々が続くなか、フェーズごとに取組を支える土台となったのは、風通しの良い社会福祉士会、日頃から気心が知れた会員同士のネットワークにつぎとしたいと思います。

今後は、これらの取組を検証し、どのような判断基準や考え方、方向性で今日に至っているのか、また有効に機能しえたのか言語化し可視化していくことが必要不可欠だと思っています。そのことが活動を共にしてきた仲間や関係者へ感謝の気持ちを伝えることになり、今後の災害支援活動のあり方にもつながるものと思います。



全国応援派遣の社会福祉士と
石川県地域支え合いセンター金沢



生活支援相談員の
宿泊拠点施設前にて

3月～4月

- 3月1日～ 地域支えあい見守り相談支援事業の活動者受け入れ体制の準備
 - 3月6日 東海4県士会災害担当者打合せ会
 - 3月7日 地域支えあい見守り相談支援事業の事業説明会(県・市町、県市町社協、社士会)
 - 3月8日 金沢市社協で地域支えあい見守り相談支援事業 訪問活動開始
- ※3月より東海北陸ブロック社士会からの活動支援者受け入れを開始
- 3月13日 東海北陸ブロック県士会への見守り相談支援事業への協力依頼説明会を開催

- 3月23日 石川県社会福祉士会定時総会(予算総会)にて日本士会・県士会災害対策本部の取組みを報告
- 4月8日 県担当課・県社協担当者との今後の活動方針の確認、地域支えあい見守り相談支援事業の課題共有(厚労省福祉人材対策室 吉田室長立会い)
- 4月16日 関東ブロック、近畿ブロック社士会へ地域支えあい見守り相談支援事業の事業説明及び協力依頼を実施。以後、5月までに全ブロックに実施
- 4月27日 日本社会福祉士会 岡本副会長との今後の課題共有、活動状況、宿泊拠点の視察

5月～6月

- 5月7日 金沢市社協地域支えあいセンターに事務担当者配置
- 5月18日 石川県社会福祉士会定時総会(決算総会)にて被災地支援活動者のリレートークを実施
- 5月21日 いしかわソーシャルワーカー連絡会(第1回会議)
※医療ソーシャルワーカー協会、精神保健福祉士会、介護支援専門員協会、相談支援専門員協会、介護福祉士会、(オブザーバー)県社協で構成
- 5月25日 輪島市被災高齢者等把握事業への協力
- 5月29日 金沢市額谷ふれあい体育館の避難所閉鎖。以後は金沢市の老人福祉センターへの訪問相談員の派遣を継続
- 6月15日 日本社会福祉士会通常総会(支援活動の協力依頼)
- 6月29日 日本社会福祉士会岡本副会長との今後の活動方針の打合せ



社会福祉相談



いしかわソーシャルワーカー連絡会

7月～8月中旬

- 7月21日 いしかわソーシャルワーカー連絡会
(第2回会議)
- 8月9日 日本社会福祉士会 岡本副会長、石川県士会災害本部、東北福祉大学都築教授が輪島市(輪島朝市通り)と珠洲市(珠洲市社協災害ボランティアセンター・珠洲ささえ愛センター)を視察
- 8月10日 石川県士会主催 会員限定災害支援特別セミナーを開催。参加者 約100人。東北福祉大学 都築教授の基調講演、災害対策本部の取組説明(災害担当理事)、支援活動者3人のリレートーク
- 8月13日 いしかわソーシャルワーカー連絡会:
輪島市での支援活動を打合せ



災害ボランティアセンター

会員寄稿

震災当時の、被災地からの人工透析患者の受け入れに関して、
みずほ病院(津幡町)の園谷準氏から寄稿いただきました。

みずほ病院での被災透析患者の受入れ対応

みずほ病院 医療ソーシャルワーカー 園谷 準

令和6年能登半島地震で発生した透析患者の支援についてご報告いたします。まずは能登地域に住む約380名の透析患者が、透析出来ない事態が発生しました。この点は当院が事務局の透析連絡協議会から、加賀地区の医療機関に協力を要請し、転院の手配を行いました。当院は1月3日に7名の透析患者を受入れました。

次に当院の影響ですが、震災の影響で水が使用出来なくなり、1月2日のみ透析が出来ない事態が発生しました。1日のみでしたが治療をお断りしたり、同系列の透析クリニックまで通院をお願いし、自力での通院が難しい患者様は当院車両で送迎をしました。翌日からは給水車が来て、通常通りの透析治療を行えています。

その後の対応として、様々な医療機関に転院した患者の受入れを行いました。どの医療機関も受

入れが一時的なため、自宅に戻れない、仮設住宅から透析治療に通えない、病状が悪化した患者を(令和6年9月30日現在)計30名余りを受入れました。受入れ方としては、入院や併設施設の入所、当院近くのアパートに入居しての外来透析などです。今後も増えていくことが予想されます。

逆に入院患者が能登の自宅に戻る支援もしました。どの患者も能登に戻っての生活に不安は大きく、戻ったとしても一時的になる患者が多数ですが、能登を離れたくない思いや(震災をきっかけに)生涯戻れないことについては強い悔いを持っておられる方ばかりです。自宅が半壊であったり、サービスが完全に復旧していないケースもありました。ただ震災前とは異なる状況も大きいですが、患者の想いを大切にしながら、今後も当院で出来る支援を行っていこうと思います。

能登地区の会員より

被災者として、災害支援に関わる者として、 成年後見人として

能登ブロック 山形 優子

能登半島地震で私自身も被災し、家も職も失くしては
や9カ月が過ぎました。仮設住宅暮らしとなり、災害支援
のNPO法人に勤め、新しいコミュニティにも馴染んで
きて、いよいよ生活の再建をどうするかを考え始めた9月
21日に豪雨が襲いました。幸い私の住む仮設住宅では浸
水被害はありませんでしたが、同じ町でも浸水被害のあ
った仮設がありました。そして皆さん報道で知っておられ
るでしょうが、珠洲でも大谷地区は土砂災害に見舞われ、ひ
どい状況になっています。大谷地区だけでなく、河川の氾
濫により床上浸水した所、浄水場が土砂で壊され、水道
復旧の目途が立たない所があります。仕事上市内のいろ
んな地域を訪問していますが、今回の豪雨で「心が折れた」
「ここから離れることにした」「もう家は解体する」という
言葉を聞くことが増えました。そんな時にどんな言葉を掛
けたらいいのか分からず、自分の無力さを痛感します。

災害にあうのは隣家が火事になって自宅も延焼してし
まう確率よりも確率が高いと言われます。誰にでも起こり
うることですが、その当事者になってしまい、支援を受け
る対象になってしまうとはなかなか考えられないものです。
有事と平時の福祉においては、生活の再建を考える視点

や対象となる幅が広いこと、制度の期限を考えながら終
結を見据えて関わるのが違いかと思いますが、健康で
文化的な生活を送ることができる権利を守ることは平時
も有事も同じです。平時と有事は続くものであり、その間
を生きていると考えられるのではないのでしょうか。また、「被
災者」と一括りにせず、一人一人の生きてきた背景や思
いを大事にすべきことだと思っています。それは現在の
支え合いセンターでの業務だけでなく、成年後見人とし
て被後見人さんたちへの関わりにおいても言えることだ
と思います。被後見人の方たちでも県外に避難せざるを
えなかった方や、希望したわけではないのに市外の福祉
避難所に入所された方がおられます。今後地元に戻られ
るのか、残った自宅はどうするのか等、一緒に考えること
が増えると思いますが、一人一人その答えは違いますし、
沢山迷いながら一緒に考えていこうと思います。

奥能登が復興するまでどれだけ時間がかかるのか予想
もできませんが、この最果ての地のことを忘れないでい
てください。それが被災した土地や人を支援することに繋
がるのではないかとと思っています。

身近に起きた災害

能登ブロック 小林 美智子

私は被災した志賀町に住み、民生委員として地域の高
齢者宅へ安否確認・物資の配給等で、発災から数日間は
地域で活動していました。

自分は震災に無縁という変な自信を持って生活してい

新入会員紹介



中出 由佳 石川障害者職業能力開発校

この度の能登半島地震、能登豪雨災害によ
り被災された皆様、心よりお見舞い申し上げ
ます。

私にできることは微力ですが、「被災者見守
り相談支援事業」と「あつまらんけ〜のと」の相談事業に参加さ
せて頂いています。全国の社会福祉士会の方と一緒に被災され
た方の自宅に訪問させて頂いています。おひとりおひとりの置か
れている状況や想いに寄り添いながら傾聴や助言等伝えさせて
頂き、継続した活動を通して連携の大切さを改めて実感してい
ます。1日でも早い復旧・復興を願い、被災された皆様にはその
地域で安心して生活して頂けるように社会福祉士会と協働・連
携していきたいと思っています。

現在私は、石川障害者職業能力開発校で相談員をしています。
当校は、昭和45年に日本海側で初めて設置された国立県営の

障害者職業能力開発校です。障害のある方が対象になっている
職業訓練施設で、就労に向けて専門的な知識や技能の習得と、
安定して働き続けることが出来るよう就労準備性を高める訓練
を取り入れ就労と定着を目的にしています。県外の方や通校が
困難な方は寮を利用することもできます。

日々の業務の中での相談内容は多岐にわたります。障害のこ
とや就労についての相談だけではなく、生活面や権利擁護の視
点での関わりも必要で、より深い知識を求められていると感じて
います。一人ひとりの困り感に寄り添い、対話を重ね、ニーズの
把握と丁寧な相談援助を心がけています。社会福祉士として働
くにあたり、自己研鑽は今後も必須だと感じています。社会福
祉士会に入会し、顔が見える横の繋がりが増えたことと、また学
ぶ機会を頂き感謝の思いです。

これからもよろしくお願い致します。

ましたが、当日は一瞬で何が起きたかも分からない状態に嘔然としました。2011年の東日本大震災では岩手県山田町の地域包括支援センターで支援活動をして、避難所を出るときに、泣いてすがる方に何も言えず後ろ髪を引かれる思いで後にしました。わが身に降りかかった災害で、当時は他人事に思っていたことを深く反省しました。

そんな事もあり、珠洲市の友人が家や職を失った現実を見て、「出来ることがあれば何かしたい」と思い、2月から1.5次避難所で支援活動をしました。輪島市からへりで避難し、発災の混乱からの休息はありがたいと感謝を言われましたが「食べて寝るだけで何もすることがない」生きがいもなく毎日が過ぎていくことでのストレスや、今後の生活について言いようのない不安をだまって聞くだけの支援でしたが、「傾聴」することで安心した顔をされていて、社会福祉士の倫理を現場で学ぶことが出来ました。

数カ月して、避難所から仮設住宅やみなし仮設に入居する方を見て、自分だけ取り残されていく不安を大声で言われた時期でしたが、支援者は丁寧に対応されていました。

その後、「地域支え合いセンター金沢」でみなし仮設の訪問活動では、知らない土地で情報がなく、誰とも話することがない、一変した生活で閉じこもっていました。そんな中で能登弁丸出しの訪問で、「あんたら腹へつとらんがけ」、「一人ではゴミも少ないし、三人で団子食べんかね」や、能登の優しさに触れ、被災者から「あんたらと話せて楽しかった」、「また来てくださいね」と言われました。

その方々は今どうしているのかと再度訪ねると、「どうにもならん！ 考えても仕方ないわ」、「地元に戻って過

すわ」と元気に話されていて安心しました。子供たちや親戚のいる金沢で暮らすと話し合っただけの方もありました。自己決定した能登の高齢者がたくましく見えました。

その後はどう暮らしているか…。思いは尽きないが、被災者の持てる力を引き出し、社会福祉士として被災者に明るい未来が描ける動機づけが出来たか…。

他職種で関わった「点」の情報を「線」にし、安心した生活が出来るよう見届けたいと思います。



穴水郵便局に開設された
車両型郵便局



「あの時死んだり良かった」を
傾聴で笑顔に



サンリオキャラクターが子どもたちに笑顔を届けてくれた



河内 建太 救護施設 三谷の里ときわ苑

令和6年より石川県社会福祉士会に入会した河内健太です。仕事は救護施設でケアワーカーとして日々、利用者さんの生活支援を行いながら、個別で困ったことなどがあれば相談に応じています。救護施設は特性上、様々な生活課題を抱える方がおり、相談内容は人間関係、金銭管理、社会復帰等と多岐にわたります。

私は救護施設で働いていて、体系的に相談援助の知識を学びたいと思い、社会福祉士を目指しました。そして社会福祉士の資格を取得して、一定の知識と技術を持つことはできたと思いますが、まだまだ利用者さんの生活課題に寄り添って解決する力や適切な社会資源につなげる専門性は足りないと感じています。そのため、石川県社会福祉士会へ入会して、生涯研修を活用することで自己研鑽に励みたいと考えております。

また社会福祉士会の研修でお会いする皆様との交流を通して、自身の仕事内容を相対的に捉え、幅広い視点をもった支援者になりたいです。将来的には仕事から一線を引いても、ライフワークとして地域福祉に関わり続ける「福祉のおじさん」になりたいと密かに思っています。

余談ですが9月中旬に生涯研修の基礎研修Ⅰに参加しました。人生で初めてのZoomによるオンライン研修で、私の古いパソコンで最後まで回線が途切れずに研修を受けることができたか不安でいっぱいでした。次回はもう少し気持ちに余裕をもって、オンラインの研修に臨めれば良いと思います。今後とも宜しくお願い致します。

●金沢城リレーマラソン2024 秋の陣に今年も参加しました

医療法人社団浅ノ川 桜ヶ丘病院 竹林 典康

9月29日(日)に、「利家とまつ」金沢城リレーマラソン2024～秋の陣～が開催され、石川県社会福祉士会チームとして参加しました。参加させて頂いた感想としては、非常に楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

金沢城を舞台にしたリレー形式のマラソンで、歴史的な景観と自然豊かな環境の中を走ることができ、日常では感じられない特別な雰囲気の中で健康的に運動できるのが魅力だと感じました。

我々、社会福祉士が得意とする「繋ぐ」を今回は襷に持ちかえて チームメンバーと協力しながら目標を達成する達成感も味わえました。チームで励まし合い、襷を繋いでいく過程は、個人で走るマラソンとは全く異なる感動があり、仲間との絆が深まりました。運営もスムーズで、給水所や案内スタッフも充実しているお陰で安心して走ることができました。観光地である金沢城の魅力を再発見できるイベントであり、また機会があれば参加したいと思います。



メンバー集合



A、Bチームとも完走!!



筆者

●福祉のつどい 2024 金沢に参加しました

医療法人社団新村病院 糸尾 陽子

10月6日(日)、松ヶ枝福祉会館にて金沢市社会福祉協議会主催の「福祉のつどい2024金沢」に広報委員会として参加しました。毎年好評の「スーパーボールすくい」で、昨年長年の酷使についに音を上げてしまったビニールプール・モーターを一新しての出店でした。

例年9月上旬開催で猛暑に悩まされていたのですが、本年は初の10月開催という事で比較的過ごしやすいか?と期待したのですが、やはり温暖化の影響かまだまだ暑さは衰えておらず、それでも元気な子供さん・大人の方々総勢139名がチャレンジして下さいました。

初めてのボーイに戸惑う幼児、ムキになって何度も挑戦しようとする小学生、子供の意外な上手さに驚く親御さんたちなど、出店側としても多くの人々とふれあい色々な姿を見て楽しませて頂きました。

スーパーボールをはじめとする消耗品の値上がり等悩ましい所もありますが、なるべく多くの人に楽しんでもらいながら社会福祉士会をアピールできる様、工夫しながら今後も継続していきたいと思います。また、ご興味のある方は広報委員会メンバーまでお気軽にお声掛けください!



●野球部 金沢弁護士会さんとの野球交流戦

医療法人社団扇寿会 老人保健施設なでしこの丘 澤田 康夫

「いつかやりたいですね」と、かねてから温めていた金沢弁護士会さんとの野球（軟式）の試合がついに実現しました。

10月12日（土）午後、雲一つない空のもと、時折潮の香りの風が吹くグラウンドに、結成間もない石川県社会福祉士会メンバー12人と20年の歴史のある金沢弁護士会チームの8名が集まりました。あれ？弁護士会チームが一人足りない？ということで、こちらから常に交代で1名守備に出すことになり、正式な対戦試合ではなく、交流試合の形でいざプレイボールです。

序盤は両チーム硬さがみられ中々点が入らなかったところ、徐々に笑い声が出始めるとそこから本領発揮、点の取り合いとなり終わってみれば金沢弁護士会チームの圧勝となりました。（きちんと点数は付けていなかったのですが20対8ぐらいでしょうか）

試合後は場所を移しての打ち上げ会も盛り上がり、今後は定期的に試合をすること、また、能登の復興支援でも互いに協力していくことを固い握手で交わし今回の企画を終えました。

ちなみにMVPは1ホームランを含む2安打と、華麗なショート（遊撃手）での守備を見せた当会でもお馴染みの「HJ弁護士」でした。県士会チームでは末松会長の鉄壁なファースト（一塁手）での守備、2デッドボールなど出塁率100%の女性メンバー鈴木さん、不振でしたが最後にホームランを放った越村さん、思い返せば切りがないほど皆さんのプレーが光っていました。



監督の筆者

集合写真

●いしかわ介護フェスタ

組織事業強化部理事 平元 恵津子

去る11月9日（土）、県産業展示館3号館にて、いしかわ介護フェスタが開催され、医療、福祉に関する様々な団体がブース出展するなか、県社会福祉士会も出展してきました。5～6人の会員が参加、途中顔を出される会員もおられ、ご協力ありがとうございました。

フェスタでは、介護技能グランプリや、大阪の芸人コンビ「span!」のコント、田鶴浜高校生たちの手話パフォーマンスなどのステージ企画のほか、介護ロボット・福祉機器の展示／体験、各ブースでは様々な介護団体が趣向を凝らし、来場者がちょっとした体験を通じて、その団体の活動への理解が深められるよう工夫されているところが多く見受けられました。

当会も会のPRを目的に、活動や社会福祉士の資格についてのパネル展示、また、成年後見制度の冊子やエンディングノートを展示・紹介したり、ヤングケアラーについて分かりやすく書かれた絵本も展示しました。特にヤングケアラーやエンディングノートは手に取ってみたい方が度々おられ、関心の高さがうかがえました。毎年恒例の子供たち向けの紙芝居も盛況で、会の有志たちが慣れない読み役を交代で務めるなか、真剣な眼差しで紙芝居に見入る子供たちの姿が印象的でした。

フェスを通じて介護や社会福祉士会についてより関心が高まり、この業界を志す人が増える機会になればと思いました。





事務局インフォメーション

お知らせ

石川県社会福祉士会ホームページの『会員ページ』について

会員ページは理事会議事録、求人情報等の情報を掲載しています。
会員ページの閲覧にはパスワードが必要ですので、ログインご希望の方は事務局までご連絡ください。



石川県社会福祉士会 HP <https://csw-ishikawa.com/>

★e-ラーニング講座を視聴しよう！

公益社団法人日本社会福祉士会では、ICTを活用して、社会福祉士に必要な知識（生涯研修、専門的な知識・制度施策の動向）等を学ぶ講座の提供を行っています。各種講座はインターネットを介して視聴が可能です。

日本社会福祉士会と石川県社会福祉士会との覚書の締結により、石川県社会福祉士会の正会員は、2020年10月から『日本社会福祉士会e-ラーニング講座』の多くの講座の視聴が無料（一部有料の講座もあります）となりました。

受講手順は、日本社会福祉士会ホームページ内の「e-ラーニング講座」のページから、「e-ラーニング講座のご利用方法」をご覧ください。ぜひ積極的にご活用ください。

★選挙管理委員会の委員公募について

令和7年5月に現役員の任期が満了となります。役員選出規則第7条に基づき選挙管理委員会を設置し、役員選出にかかる準備を行います。つきましては、以下の方法により委員を公募いたします。

＜活動内容＞ 選挙管理委員会の委員は、理事および監事の選挙を実施管理します

＜応募資格＞ 正会員 ※ただし、次の方は応募できません
現に理事、監事にある方、もしくは理事、監事の候補者になるうとする方

＜募集人員＞ 5名

＜応募締切＞ 令和7年1月31日(金)

＜応募方法＞ 氏名・所属機関名・会員番号・連絡先を事務局までご連絡ください
(電子メールで送信いただいても構いません)

編集後記

はじめに、令和6年能登半島地震、そして9月に発生した豪雨による被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げます。81号では、その震災・豪雨に関する石川県社会福祉士会の取組や能登で被災されながらも尽力されている会員の声を中心に、日々の活動も交えて編集しました。

社会福祉士会では、「つなぐ」、「ささえる」、「まもる」、そして「地域と共に歩み続ける」を合言葉にしていますが、今まさにその真価が問われています。個々人が社会福祉士としての専門性を日頃から常に磨き続けるとともに、会として一致団結した取組を展開していくこと、広報委員会としても他部・委員会等と協力した取組にさらに尽力したいと思いを新たにしています。

広報委員長 大田 健志